

NPO 法人 純正律音楽研究会会報 ～2019年8月発行～

# ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291  
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 2019年8月16日  
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会  
編集 相坂政夫

## No.61



夏の暑さが残る今日この頃、会員の皆様如何お過ごしでしょうか。  
今年のコンサートは1月14日新宿文化センターで開催、また、3月30日にはヤマザキパン LLC ホールで開催いたしました。ご来場頂いた皆様、誠にありがとうございました。

今後のコンサートは、9月21日(土曜日)午後2時開演、千葉県市川市の「ヤマザキパン LLC ホール」、11月17日(日曜日)午後2時開演、滋賀県近江八幡市の「安土 文芸セナリヨ」、12月22日(日曜日)午後2時開演、東京都渋谷区上原の「けやきホール」にて開催いたします。お近くの方は是非ご来場いただければ幸いです。

会員の皆様のご協力により、純正律音楽研究会も法人設立から本年10月22日で丸15年になります。まだまだ至らないところだらけですが、今後とも純正律音楽の普及に邁進して参りたいと思っております。

純正律音楽は、人の心を癒します。  
今後とも純正律音楽研究会をよろしく願い申し上げます。

## 音楽のロマン

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト  
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表  
水野佐知香

熱〜いですね！

今年の夏は雨が続き、お日様を見ることもない日が少なかった 7 月でしたが、なんと 8 月に入り、猛暑で身体がついていくのがとても大変です。皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

私が会長を務める横浜音楽文化協会では明治維新に横浜で活躍されたドイツ人音楽家、クリスチャン・ワグナー氏を称えて、30 年にわたり毎年ワグナー祭というコンサートを横浜で開催しています。

彼の命日には横浜港の見える丘の一角、外人墓地に眠るお墓の前で、会員が歌ったり、ギター、アイリッシュハーブなどで演奏をして墓前祭をしています。その頃に演奏された曲なども、コンサートでは取り上げたりしている関係で、居留地研究会の方とも親しくなり、今年 10 月に行われる全国居留地研究会横浜大会では横文協も共催して「ワグナー祭スペシャルコンサート」のコンサートをさせていただくことになりました。

そのご挨拶文からです。

「現在、世界のコンクールで上位入賞したり、ソリストとして、また、オーケストラ、舞台で世界をまたにかけて活躍する日本人が多く、クラシック音楽がいつも私たちの生活の中に入っていて、祖先から受け継いでいる感覚がありますが、今年は明治維新から 151 年目になります。来年は音楽の父と言われるヨハン・セバスティアン・バッハ生誕 335 年を迎えます。バッハが生まれた頃は、日本では元禄文化が花開いていたと聞いています。モーツァルトが生まれたのが 1756 年なので、私たちが親しんでいるバッハやモーツァルトの生きていた時代は日本では江戸時代だったことになります。

私たち音楽家にとり、明治初頭、ヨーロッパから日本に渡り居留地にて、西洋音楽を紹介して伝えてくれた方々がいらしたからこそ、今があることにロマンを感じ、日本における西洋音楽の発展に繋がる基礎を築いて下さったことを想うと感慨もひとしおです。彼らの思いを胸に、ますますの精進をしなければと思いを新たにしております」

現代に生きる私たちが演奏している曲が、江戸時代に作曲されたとは、信じられません。信じられないのは、その頃日本で誕生した「歌舞伎、能など」が、古い時代のように感じてしまっているのは、私だけでしょうか？

同じ時代なんですね！

いつも思うことは、玉木さんが、生きていらしたら、今はどんな作曲、編曲をされるのかしら！

昔高校生の頃、玉木さん宅に通い詰めて玉木さんに、ヴァイオリンの面白さ

を教えてもらい、今、ヴァイオリニストとして重鎮になられている方のお話も聞きました。玉木さんに出会えなければ、ヴァイオリンを今弾いていなかったそうです。

玉木さんの音楽は永遠に生き続けます。彼の魂を忘れないように、伝えていきたいと思います。

20年前に玉木さんと作った、ヴァイオリンデュオ曲集が、今年12月までに再版されることが決まりました。出版記念コンサートとして12月22日(日曜日)けやきホールで開催する予定です。

皆さま！暑さに負けず、お身体を大切にお過ごしください♥

### ムッシュ黒木の純正律講座 第60時限目

#### 平均律普及の思想的背景について(49)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

引き続き、カトリックとプロテスタントの政治への関わり方の違いについて述べていきたい。カトリックは政治権力と結びつくことによって発展してきた。対して、プロテスタントはそのような権力と一体化したカトリックに抵抗(=プロテスト)し独立した勢力であり、それ故、何らかの要求を掲げて社会運動を行うことは盛んだが、政治権力に組み込まれることは良しとしない。

キリスト教徒は政治に長けていると言える。例えば、『女を修理する男』という映画がある。アフリカのコンゴにおいてレイプ被害者の救済に尽力したことにより、2018年ノーベル平和賞を授与された婦人科医デニ・ムクウェゲ氏を追ったドキュメンタリー映画である。コンゴのある地域では、タンタルなどの鉱山開発のために武装勢力が性暴力という手段によって厳しい地上げを行っていた。暴力によって女たちの心を折りその土地から追い払ってしまえば、近隣の村々において形成された地域社会を崩壊させることができ、いとも簡単に地上げが達成できるというわけだ。しかも、反政府勢力だけではなく、正規軍もこのような凶行に加わっていたというのだから始末が悪い。それに対して立ち上がったのが、ムクウェゲ医師だ。氏は暗殺の危険に晒されながらも、被害女性のレイプによって傷ついた身体を治し心のケアにも尽力するばかりでなく、地域住民の先頭に立ち法の名の下による犯罪者の処罰と権力による治安の維持を政府や国際組織に訴えたのだ。

ムクウェゲ氏の信念に基づいたこのような行動は、プロテスタントの牧師であった父親の影響が大きいであろう。キリスト教徒は、日曜ごとに教会に集まり集会を開く。氏はそのような教会という場を使って、レイプされたことにより村を追い出された被害女性を集め療養施設を開くと同時に女性の教育機関を立ち上げたのである。教会が人の多く集まる施設であるすれば、そこには自然と人の輪ができるということなり、そこで人々と共に社会運動へと起こしてい

くことができる。キリスト教は教義だけではなく、そういう社会的実践のノウハウを持っているところが圧倒的な強みとなっていると言えよう。

このようにプロテスタントは政治運動を展開していくが、彼らは決して中央政府に歩み寄ることはない。アメリカなどのプロテスタントが多数派を占める国家における「信教の自由」とはこのような文脈で理解すべきなのだ。つまり、政府が特定の宗教に肩入れしてはいけなし、国民にそれを押し付けてもいけない。市民はそれぞれがどのような宗教でも選択することが出来るし、自分の好む宗派で自由に活動をする事ができる。そして仲間と共に運動を展開し、自分たちの政治的主張を中央政府に要求するのだ。この場合、自分たちの活動の幅が広ければ広いほど都合が良いので、政府は小さいほど良いという発想が出てくることになる。大統領や政治家であっても、信教の自由は保証されるので、彼らが公の場で自分の信仰を述べることも当然許される。ただ、国家が特定の宗教と一体になってはいけなし、また信仰を押し付けることも許されない。

つまり、プロテスタントの政治運動とは下からの運動であり、国家権力と結びついて政治力を駆使することは禁じられているということになる。対して、カトリックの政治とは上からの動きであると言うことができるだろう。

## JR 中央線、自殺多発の怪 2

NPO 法人 純正律音楽研究会 初代代表  
玉木宏樹遺作

### その他の音楽公害

街にあふれるひどい音の公害は、もちろん JR のホームにとどまらない。私の事務所は西麻布だから、港区だけど、夕方の五時になると必ず、どこからともなく「夕やけこやけ」のチャイムがきこえてくる。いまさら子供に帰宅を呼びかける音にしては、陳腐だが、あの音は働くものには気の滅入る、なんとなく情けなくなる音なので、好きではない。非常事態発令の PA システムで、二十三区全部に独自のものがあるという話だが、他区ではどうなっているのだろうか？

だいたい、毎日夕方の五時に決まってあの曲を流すというのは、ある種のマインドコントロールのような気がしてならない。

でもまだ、五時の「夕やけこやけ」は何となく、回りの空気にブレンドされて、音そのものの不愉快さはさほどでもない。直接的に耳に攻撃をかけてくるのは、電話の保留音である。自分の電話の保留音は滅多にきけるものではないので、この項を書くにあたってきいて見た所、索漠とした無味乾燥な音の羅列で、ブラームスの子守唄らしきものが流れた。こんな音、注文したわけでもなく、買った電話（Sony 製）に最初から埋め込まれているのだから、どうし

ようもない。

Sonyといえば、超一流の音響機器メーカーでもあり、レコード会社も持っている一大音楽産業コングロマリットでもある。皮肉なことに、私が日本で最初の純正律のCDを出したのは、ソニーエンタテインメントだった。

ここで声を大にしていえることだが、転調しない単調なメロディをなぜ音の濁った平均律でやらねばならないのか？ おそらく、音の協和とかには全く無神経な現場の作業員が、平均律のドレミの周波数だけしらべて作ったにすぎないはずだ。

電話の保留音は「夕やけこやけ」とはちがい、余韻もブレンドもなく直接耳を襲撃するから、たいへんにこたえるのである。

横断歩道に設置された目の不自由な人への案内用PAから流れ出る平板で気味の悪い「通りゃんせ」も大問題だ。一切、音楽表現を封じたあのメロディまがいは、二十～三十年前のおもちゃ屋を思い出させるほどアナクロ（アナログではない）なモノトーンで、あんな音に誘導される人たちの内心は大変傷ついているのではないだろうか。「通りゃんせ」の歌詞内容は、みなさんをご存知だろうけど、実はすさまじいものなのである。

あんな非音楽的なものをたえずきかされる近所の人はずいぶん文句をいわないのだろう。不思議なものだ。

ここまでくると、別に平均律や純正律などという以前の問題で、せめて、五時の「夕やけこやけ」程度のチャイム音であればまだしも、ベターッと貼りついた抑揚のない初期のゲーム音まがいを四六時中街中にまきちらしているのは、一種の犯罪だともいえる。

銀座四丁目に流れるウェストミンスター音も不自然だ。東京および日本を代表するメインストリートに流れるのがロンドンの音とは、銀座のアイデンティティはいったいどうなっているのだろう。

あとで紹介する「日本人はロバの耳」という本の中で書かれている事例でも次のような箇所がある。これは、C、J、ディーガンという英国人の告発文である。

最近神奈川県某市役所の防災課長に、市のチャイムの音の悪さを指摘したところ、「英国の国会議事堂の時計台と同じウェストミンスターチャイムだが、どこか違うところがあるのか」と逆に聞かれて哑然とした。つまりメロディーが同じだから、品のいい音にきまっているのではないかと言わんばかりだった。

街角の多くに設置されているからくり時計による時報音楽、これもひどいものだがそれについては後ほど詳しく述べる。

それに比べれば逆説的だが、右翼の街宣カーの軍歌の方がまだよほどかわいいものといえる。というのも彼らは、軍歌をがなりちらす暴力性を充分意識しているからで、非常に醜怪で不愉快だけれども、『ワシャー右翼だ。文句あつか！』という狂暴な存在感はアピールしている。それに比べ、公的なサイン音というのは、音の持つ暴力性を意識せずに垂れ流しているのだから罪が深い。

戦前の大正、昭和の頃、銀座を訪れた欧米人たちがいちばん驚いたのは、町中にコダマする下駄の音だったという話が伝わっているが、なるほどと考え込んでしまった。当時の日本人は、これ見よがしに、カラコロンと音を立てることに快感を覚えていたのではないだろうか。

私自身も子供時代、新しい下駄を新調してもらった日は喜び勇んでカラコロンと大きな音を立てたものだし、他人の下駄の音で、その値段まで大体分かったのだから、それから類推するに、銀座の下駄の音地獄は日本人の全体の共同正犯である。

まだ下駄の音、風鈴、虫の音、には風流も感じられるが、横断歩道の「通りゃんせ」には、風雅のかけらもない。百害あって一利なし、一刻も早く改善してほしいものだ。

街の音を「純正律」に染めあげよう

こういうふうには街あふれる騒音公害の告発を始めたわけだが、過去にそういう動きがなかったわけではない。高梨明（拡声機騒音を考える会）著「日本人はロバの耳」という本では、かなりつつこんだ街の音公害についての研究・告発がなされている。その奥の深さ、学術的な研究の前には私の発言など、犬の遠吠えにしか見えないかも知れない。しかし「日本人はロバの耳」の唯一最大の欠点はそういう公害をやめろ！やめろ！というばかりで、ではどうしたらいいのかという提言が見られないことにある。

私は世の中に散乱し、蔓延する、注意喚起音や、存在誇示音（まとめてサイン音響といおう）を追放しようとしても無駄な努力で、そんなものなくなるはずはないと思う。ならば、少しでもその不快感をなくし、うまく街の風景と調和するような音の在り方を提言して行くつもりである。それは実に簡単なことで、「純正律」という、非常によくハマる、キレイなドミソを醸成していく調律法である。

現在の音楽シーンの九十九%を占めているのは、半音を単純に十二に分割した「平均律」の調律であり、この調律はピアノやギター、ハープのようにすぐに音が消えていくために、パラパラと始終ちがう音を出さなければならない楽器には非常に向いているが、コーラスやブラスアンサンブルや、弦楽合奏等の一定時間、音を持続できる演奏には全く向いていない調律法なのである。

「平均律」とは、平均に音の高さを狂わせている調律法をいうのであり、ピアノの調律は完全にハモった美しい完全五度を少しずつ狂わせていく方法で調律をする。そういう風に狂わせないと一オクターヴを十二に平均化することはできないからだ。

いま一部の熱狂的なファンを創りつつある、古楽関係の、ノンビブラートで天国的にハマるコーラス。あの世界は絶対に「平均律」では表現できない。平均律のピアノで音程をとるコーラス訓練では絶対に到達できない世界である。

あの天国的なハモリ、コーラスの形態、それは単純なことである。一切の楽器の音の高さに拘らず、一人のうたう「ド」の高さに、ハモって「ミ」と「ソ」をうたう訓練をすれば、得られる世界であり、ダークダックス等の男性カルテットのいちばんきれいにきこえる時、その音程のとり方を「純正律」というのである。

もちろん「純正律」は音響物理学的にも完全なものであるが、もちろん欠点はある。それは、近代音楽のように複雑なコード進行とか、転調には向かないということだ。コーラスとか、弦楽や、ブラスアンサンブルなら、耳でハモることで、微妙な音程を取ることは即座にできるが、ピアノのように固定されたピッチの楽器でそれをやろうとすると、オクターヴの中に最低五十三（五十九ともいわれている）の鍵盤が必要となってしまうのである。

まあ、ちょっと話はむつかしくなってしまったが、要はこういうことだ、駅のサイン音のような転調する必要のない（実際、必要のないのに半音上や半音下に転調するのは、平均律に毒された下手な作曲家の小ざかしい知恵）単純なメロディならばわざわざ音程を狂わせている平均律で作る必要など一切なく、純粹にキレイにハモる純正律で作ったほうが、耳にもやさしく、決して生理的暴力には訴えない。いまぞ声を大にして言おう「街を純正律のピュアな音で染めあげよう！」

### からくり時計の音楽革命

さっき、のちほど述べると書いた「からくり時計」について、今、我々のグループで非常に面白い試みを展開中である。いや、もう現在の時点に於ては試みの段階は通りこし、実機の制作に入っている。

何やら、思わせぶりの書き方をしてきたが、思い切って、内容を公開しよう。それは街にあふれる、からくり時計の音楽の作り方を根幹からくつがえす、革命的な方法論である。

私が、「からくり時計」を意識するようになったのは、有楽町のマリオンが最初である。当時は大変もの珍らしく、大がかりな人形が動くだけでもびっくりで、毎時ごとに、多数のお客さんが集まったものだった。もちろん、私もその一員、最初はおのぼりさんの如く、もの珍らしさにつられ、夢見心地でいたのだが、二度、三度と足を運ぶうち、毎回同じことをくり返す音楽に段々、不快感を強めていったのだ。

いつも同じ音楽ということだけではなく、録音（こういう言い方は正確ではないかも知れない、つまり IC に焼きつけた音源という意味）された音楽が、チャイムを模倣したつもりの非常に余韻の長い音で、次々にかぶさってくるちがう音程にダブって、激しく不協和音を発生するのである。

マリオンの評判ぶり（こんなものは、ただ物珍しいだけのこと）に刺激されたのか、その後、いたる所に、無神経なからくり人形がはびこり始め、いまや、ビールスのように日本中を席卷している。

私は、これまでの日本のからくり時報時計には四つの点で欠陥があると思う。

#### 第一

JR のホームの音の時にも書いたことなのだが、大げさな転調の必要ない、シンプルでメロディならば、なぜ響きの澄明な「純正律」にしないのかということである。特にチャイムの音を模した余韻の長い音は、次にかぶさってくる音程関係によほど気を配らないと、非常に濁った音になる。例えば「ド」「ミ」「ソ」

という音を並べても、平均律で調律している限り、「ミ」の音は高すぎて、純粋にハモることはできない。平均律の「ミ」はオクターブを単純に十二個に平均化したための最大のシワ寄せで、たいへん高い音程になってしまったのである。

## 第二

いままでの時報音楽は I C に焼きつけているために、システム全体をとっかえないかぎり、ずーっと同じ音楽を流しつづける運命にある。最初の物珍しいうちはまだいいが、いちど鼻についたが最後、毎時毎時の同じ音楽の流れに「いい加減にしろ」とどなりたくもなってくる。これを改善し、一時間ごとに音楽が変わり、季節ごとにも模様がえするとなれば、すばらしい変化が楽しめるではないか。

## 第三

注意深く人形の動きを見てもらえばわかるが、いま町中のからくり人形たちは、何か鐘のようなものを打っている振りはしているが、実際に音を出しているわけではない。これを実際に人形が何かを叩いて音を出すようにすれば、非常にアトラクティブで面白いのではないか。

## 第四

これは第二とも共通する原因なのだが、音源が、非常に限られており、何度も聴いていると所詮おもちゃの音のようになんかきこえなくなる。どうしてもっとクオリティの高い音源を使わないのか？ 極言するならば、シンセサイザーじゃなくて、生のオーケストラをバックにするようなことはできないのだろうか？

私のこの四つの疑問はよく考えれば皆さんも、そうだそうだと納得されるにちがいない。しかしすぐに反論の声がきこえてきそう。「そりゃ、文句をいうのは簡単だ、しかし、どのからくり時計だって、超一流の時計メーカーが総力をあげてやっていること。それなりの研究はしているはずだから、いまが精一杯じゃないのか、だいいち、そんな問題を持ちだしても、それを解決する方法なんてあるのかい？」

ここで待ってました！の真打ち登場である。このすべてを一挙に解決し、街中のからくり時計の音楽を根底からくつがえす方法論があるのだ。それは、日本ビクター（株）が開発した CD-MIDI システムである。

詳しい内容を説明すると、企業秘密にふれるので、（もっとも私の理解力では説明しきれないわけがない）、簡単にいうと、普通のオーディオ・CD にサブコードとして MIDI 情報をシンクさせるということである。

MIDI を御存知ない方のために、少し説明をさせて頂く。

MIDI とは、ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイスの頭文字を取った略語で、現在のところ、パソコンで音楽を創ったり、聴いたりするための世界的統一規格となっている。

MIDI なんて、むつかしいことは言わなくても、現在ちまたにあふれる通信空



オケで流れている空オケの演奏、あれこそが MIDI である。

いかに豪華なフルオーケストラのような音がしていても、通信空オケである限り、フルオーケストラのような音が鳴るように、パソコン上で DATA を作り、その DATA をホストコンピュータから通信で送り、各端末（通カラの店）に組み込んだ一台のシンセサイザーを演奏させているのである。

早い話が、MIDI で音楽制作すれば、安上がりのオーケストラまがいの事ができるということなのだが、ではオーディオ・CD と MIDI を同居させて、いったい何ができると言うのか？

MIDI とは、結局、ON・OFF の信号制御で成り立っているのです、オーケストラまがいにも使えるが、もっと簡単にオン・オフのコントロールで外部の機器を同時に動かすことができるのである。

MIDI というのは、音楽に使われるのと同じころから、照明の人たちにも浸透していた。いまのプロの照明の人たちの卓は MIDI コントローラー化している。ユーミンのツアーも一早く MIDI 化し、それは音楽で使うというよりは、松任谷氏のキーボードにアサインした（つまりキーナンバー一点ハなら、照明オンとかいう風に指定すること）照明、鍛帳のあげおろしに利用したという話だ。

CD-MIDI システムとは、オーディオは CD で流し、シンクロした MIDI 情報で外部機器をコントロールするというところに眼を見張る効果があるのである。

私は三年くらい前に、CD-MIDI のデモのためにビクターが開発したドラム人形『ドンタタ君』のデモ演奏を眼の前にしてあまりの面白さに笑い転げると同時に無限の可能性が瞬時にひらめいた。

開発費を度外視すれば、ディズニーランドエレクトリックパレードをも充分にしのげるものができるはずだと直感したのである。

ドラム人形『ドンタタ君』は、そんなに大きなものではない。一九七七年の NHK 教育 TV 夏休み特番「ノッポさんのパソコンと遊ぼう」という番組で、私、玉木が、パソコン音楽博士として出演しながら、番組のタイトルバックで、けなげにドラムを叩いていた人形が、その『ドンタタ君』である。

私はそのテーマ曲を全部 MIDI で作成した。MIDI で音楽を作る場合、一チャンネルごとに楽器の音を指定して行って、さまざまなアンサンブルを構成するのだが、十チャンネル目は国際的にドラムのパートに指定されている。その十チャンネル目のデータを『ドンタタ君』に流してやれば 完全シンクロで自動演奏するのである。

デモ演奏に感激し、触発された私は、ビクターから個人的に独自の動きをしてもよいとの諒解を得て、さっそく自分のイメージした分野の人たちにみてもらった。

おおむね第一印象は好評だったが、なかでも一番レスポンスのよかったところと話がつながり、結局は数年かかったが、ついに来年の秋には実機の公表の段階にまでこぎつけることになった。それが、一部上場企業のリズム時計である。

彼らは彼らで、音楽と人形のシンクロについて頭をなやまし続けていた時でもあったらしく、自由なテンポ制御のできる MIDI を前にして、なぜこんなことに気がつかなかったのだろうかというような、一種の衝撃をも受けたらしい。

そして、十チャンネルのオンオフによって人形自体がチャイムを叩くことができること。また、音源を CD 供給することによって、毎時間、毎日、季節ごとに曲を変えることができるという非常にアトラクティブな変化をつけられることに、我々一同、強烈な新鮮さと可能性を覚えたのである。

もちろん、ビクターとリズム時計に話をつなぐだけでもしんどい作業だったが、それだけで終わってはただの代理店業務のようなもの。ここから先、CDの音源供給が我々本来の仕事になるのだが、ここに「街を純正律で染めよう」というスローガンを実践しなければ、ただの音楽公害垂れ流し人の一人に成り下がってしまう。とくに、きれいに金属的な余韻を強調するためには、より純正律に近い調律をしないと、濁りばかりが増幅されるのは、前にも書いた通りである。

話が進んで行くに従い、技術的なことはビクターとリズムの間にまかせて、私はもっぱら、「からくり時計」の調律について何度も何度もリズムの担当者にレクチャーし、耳にタコができるほどすりこんだ。「自分たちは音楽のことは分からない」と逃げようとするのを前に、「なんということをして！ 会社名には立派に音楽用語を使っているではないか」などとなかば脅したりした結果、担当者は、純正律なんか何も知らないプロの音楽家よりはいっばしの耳年増になっている。

リズム時計は、三協精機とも組んで、大型のオルゴール時計も開発しており、かなりのヒット商品になっているが、それを作る段階で、三協の技術者に「純正律」の話をしたら、先方は先方で「うちにも純正律でオルゴールを調律できる人間は何人かいる」とかで話がはずんだと面白そうに話してくれた。

CDでオーディオの音が提供できるくらいだから、まん中で、人形がチャイムの実機を打ち、左右のスピーカーからは、フルオーケストラのバックの音（もちろん MIDI ではなくシンフォニック・オーケストラである）が流れるという非常に豪華なパフォーマンスが実現できる。わたしはそのためにも九十七年の十月の末にロンドンに行ってロンドンフィルを指揮し、録音してくる予定である。

#### 註

純正律にくわしい人へひとこと。シンプルな楽曲ならば、バックのオーケストラや、シンセサイザーを純正律にするのはむずかしいことではない。しかし、人形が叩く実機の調律は、叩く数が限られるから、純正律にはできない。そこでモーツァルト時代の音律、中間音律で調律している。



CD レビュー 純正茶寮  
『September Song』  
純正律音楽研究会理事 黒木朋興



『September Song』  
Pascal Comelade  
レーベル: Virgin  
ASIN: B00004XNOR  
JAN : 0724384965624

フランスのトラッドの大御所、Malicorne が1986年に出したアルバムである。彼らは休眠の時代を経て、2011年に活動を再開してはいるが、これが最後のスタジオアルバムになっている。

このアルバムは、当時、ワールド・ミュージックブームだったということもあるのだろうか、以前のアルバムに比べてかなりポップな仕上がりとなっている。

とは言うものの、冒頭からバグパイプがイントロを奏でているし、ハーディ・ガーディやクルムホルンなどの古楽器も使われている。更に、Malicorne の真骨頂とも言うべきア・カペラも聴くことができる。

声のハマリが純正律音楽であることは言うまでもないが、バグパイプ、ハーディ・ガーディやクルムホルンなどの古楽器も平均律ではなく、微分音を奏でる楽器であることを指摘しておきたい。

ギター、ベースやシンセなどはもちろん平均律の楽器である。しかも全体としてポップを意識した編曲である。かつて、高校時代、このアルバムを買って聴き狂っていた頃にはあまり分からなかったが、この作品においては、平均律を基本とした演奏の上に見事に純正律のハマリや古楽器の微分音を溶け込ませることに成功している。流石の一言である。

## 隠れキリシタンと世界遺産

純正律音楽研究会 正会員  
弁護士 齋藤昌男

### 第1. 用語

#### 第2. キリシタンを巡る主なる事件

1. 日本開教の聖人 シャヴィエル
2. 西洋医学の日本への伝来
3. 日本最初のキリシタン大名
4. 天正遣欧使節
5. パテレン追放令
6. サン・フェリーペ号事件
7. 日本二十六聖人
8. 細川ガラシャの死
9. 岡本大八事件
10. キリシタン禁制
11. 宗門改
12. 慶長遣欧使節
13. キリシタン大名高山右近マニラへ追放
14. 京都の大殉教
15. 大村の大殉教
16. 江戸の大殉教
17. 日葡混血児287人をマカオへ追放
18. 島原の乱
19. 小西マンショの殉教
20. 豊後崩れ
21. 郡崩れ
22. 木場崩れ
23. 天草崩れ
24. 浦上村の潜伏信徒発見
25. 1867年（慶応3）キリシタン強圧事件、「浦上四番崩れ」発生

#### 第3. キリシタンに対する弾圧

#### 第4. 「生月島」がなぜ世界遺産から消されたのか。

### 第1. 用語

1. キリシタンとは、元々ポルトガル語で「キリスト教徒」という意味であり、英語では「クリスチャン」となります。元来はキリスト教徒全体指しますが、日本の戦国時代から江戸時代、更に明治の初め頃まで、日本に伝来したキリスト教（カトリック）の信者・伝道者またその働きを指します。

この時代に南蛮貿易に携わったオランダ人(彼等はプロテスタント)は、「キリシタン」とは呼びません。そして現代の日本のキリスト教徒は、カトリックでもプロテスタントでも「クリスチャン」と呼びます。

2. キリシタンに使われる用語は、多数ありますが、その代表的なものを以下に挙げておきます。これらは全てポルトガル語です。

- (1) パアデレ 父・神父・伴天連
- (2) マアデレ 母
- (3) イルマン 修道士
- (4) セミナリオ 神学校
- (5) コレジオ 学院・大学
- (6) アニマ 靈魂
- (7) パライソ 天国
- (8) アンジョ 天使
- (9) アンゼレス 天使祝詞
- (10) サカラメント 秘跡
- (11) イゲレジャ 教会
- (12) ミニストロ 司祭、聖職者

## 第2. キリシタンを巡る主なる事件(年代順)

### 1. 日本開教の聖人 シャヴィエル

シャヴィエルが鹿児島へ着いたのは1549年8月15日であります。シャヴィエルはフランスのピレネー山脈西南部ナヴァラ王国(1515年スペインに併合)出身です。別名バスク地方とも言います。日本では一般にサビエルと称されていますが、シャヴィエルと表記するのが、最もバスク語の発音に近いと、認められるそうです。

1547年にマラッカで鹿児島出身のヤジロウに会い、日本開教の召命を覚え、周囲の反対を押切って、トルレスらを率い前記の日に鹿児島に上陸しました。島津貴久に謁し、日本での宣教を開始しました。彼は平戸から山口を経て1551年1月入洛しました。しかし、朝廷も幕府も政治力を失い荒廃している京都を見て、山口に戻って大内義隆に謁し、大友宗麟の招きで、1551年9月には豊後府内に至りました。

しかし、東洋学芸の源泉としての中国布教の重要性を感じた彼は、1551年11月15日、準備のためインドへ向かいました。従って、滞日したのは、2年3ヶ月にすぎませんでした。準備を整えて1552年ゴアから広東付近の上川島に上陸しましたが、熱病にかかり同地で召天しました。

シャヴィエルを案内して鹿児島へ帰国したヤジロウは、鹿児島生まれで、倭寇上がりらしく、人を害したためマラッカへ渡り、シャヴィエルに会い、ゴアの聖パウロ学院で学ばせてもらって鹿児島に帰国しました。シャヴィエル上洛後、鹿児島に居残り伝導していましたが、5ヶ月後に、迫害に堪えかねて出奔してしまいました。寧波(ニンポー)(中国浙江省北東部の港湾都市)に渡りましたが、同地で殺害されたとのことです。シャヴィエルとともに来日したトルレスは、1551年シャヴィエル離

日後、その後任者となり20年間にわたり布教を指導し、豊後、肥前で布教し、大友宗麟の保護を受け、1563年（永禄6）大村純忠に受洗をしました。1570年10月2日（元亀1）天草志岐で召天しました。その時日本の教会の信徒数は3万名を超え、ヴァリニアーノによれば、トルレスの死で、日本の教会の第1時代が終わったとされています。

## 2. 西洋医学の日本への伝来

ユダヤ系の家庭に生まれたポルトガル出身のイエズス会の宣教師、医師アルメイダ（1525年—1585年）は、1552年（天文21）貿易商として平戸にやって来ました。来日後イエズス会に入会し、私財を投じ、1555年（弘治1）豊後府内に孤児院を開設し、1557年（弘治3）には、総合病院を開設し、自ら外科を担当し、臨床的に日本人に西洋医学を伝えました。1580年（天正8）マカオで司祭に叙階され、翌年以来天草地区の院長となり、1583年（天正11）永眠しました。大分市の県庁前遊歩公園に南蛮医学伝来記念碑が、天草本渡市殉教公園に開教記念碑があります。

## 3. 日本最初のキリシタン大名

大村純忠（おおむらすみただ） 1533年（天文2）—1587年5月25日（天正15. 4. 18）1563年、トルレスより受洗した日本最初のキリシタン大名です。天正遣欧使節を派遣しています。戦国大名の有馬春純（はるずみ）の次男で1550年（天文19年）大村家を相続しました。南蛮貿易の利に着目し、宣教師を領内に招き、1562年（永禄5）には平戸以外の良港として、大村領の西彼杵（にしそのき）半島北端に近い横瀬浦にポルトガル船を入港させました。1563年に横瀬港が壊滅したことからポルトガル船は、翌年平戸に入り、1565年からは大村領の福田浦へ、1571年からは長崎に来航するようになりました。全領民を強制的にキリシタンとするとか、領内の寺社を全て破壊する約束もしていますが、実行はされませんでした。1580年（天正6）、純忠は長崎と茂木の両港をイエズス会へ寄進し、長崎は教会領となり、キリシタン布教の中心となりました。晩年には、純忠は、佐賀の竜造寺隆信の圧迫に苦しめられました。

## 4. 天正遣欧使節

1582年（天正10）イエズス会巡察師ヴァリニアーノが離日にあたり、キリスト教界に日本の事情を知らせ、日本にキリスト教世界を伝えるために、大友、有馬、大村3侯の名代として日本人少年をヨーロッパに派遣する事を企てました。大友宗麟の代理には伊東マンショ、有馬晴信と大村純忠の代理には千々和ミゲルがそれぞれ選ばれ、更に副使として原マルチノと中浦ジュリアンが加えられました。一行は1582年2月20日（天正10. 1. 28）長崎をポルトガル定期船で出帆し、ゴアに至ってヴァリニアーノと別れ、喜望峰を迂回し、2年6ヵ月の旅の後リスボンに到着しました。1584年には、スペイン国王フェリペ2世に謁見し、翌1585年には、ローマ教皇グレゴリウス13世、シクストゥス5世に謁見し、北イタリアの諸都市で大歓迎を受けました。そ

の後、スペインを経て1586年4月(天正14.2)リスボンを離れ、ゴアでヴァリニャーノと再会しました。しかし、マカオに到着して、日本では伴天連追放令が発せられていることを知り、2年近く同地で滞在することを余儀なくされ、1590年7月21日(天正18.6.20)ようやく長崎に帰りました。翌1591年3月3日、聚楽第で豊臣秀吉に謁見しました。キリシタン禁制下、使節の晩年は不遇でありました。

#### 5. バテレン追放令

1587年7月24日(天正15.6.19)に、豊臣秀吉が筑前箱崎の陣中で発令したキリスト教宣教師(バテレン)に国外退去などを命じたキリシタン禁制定書のことを言います。

- 定書第1条では、日本は「神国」であるとしています。
- 第2条「国郡在所知行等、給人に被下候儀者当座之事候」と、邪宗禁制に名を借りて絶対的封建体制樹立を宣言しています。
- 第3条「伴天連儀日本之地ニハおかせられ間敷候間、今日より廿日之間ニ用意仕可帰国候」とあります。この禁制により京阪、長崎などの教会が破壊され迫害が行なわれました。また、何人かのイルマンがマカオに引き揚げました。ミニストロ達は、目立たない様に司牧活動を続けました。しかし、日本二十六聖人の殉教もこの禁制に基づくものであり、江戸幕府の禁止策もこれを継承したものでありました。

#### 6. サン・フェリーペ号事件(1596年10月10日<文禄5.8.28>)

「伴天連追放令」の発令時には、まだキリスト教を直接邪教視する理由は薄弱でありましたが、まもなく秀吉側に好都合な事件が起きました。1596年7月12日にマニラを出帆し、メキシコに向っていたスペインのガレオン船サン・フェリーペ号は、台風に翻弄され、10月10日に土佐の浦戸に漂着しました。慣習に従い積荷没収に派遣された役人に対して、航海士の一人が国王は、諸国を征服する時に、あらかじめ修道士を派遣し、キリスト教への改宗者が多数になると、その協力を得て、武力をもって土地を手に入れた」と言ったと言われております。役人の報告を聞いた秀吉が立腹し、1596年、フランシスコ会の宣教師を中心とするキリシタン26人を逮捕し、翌年1597年2月5日に長崎で処刑が行われ「二十六聖人」の殉教事件を招きました。サン・フェリーペ号は、修繕後、1597年4月中旬に土佐を離れて5月16日にマニラに帰着しました。

#### 7. 日本二十六聖人

1596年12月8日(慶長1.10.19)、秀吉は、サン・フェリーペ号事件がきっかけとなって、京都と大阪の宣教師と信者を捕えるように命じました。石田三成の計らいで、捕われ人の名簿が24名に限られました。同年12月31日には死刑の判決がなされ、京都の牢に集められ、翌年1月2日に上京し一条の辻で耳をそがれ、伏見、大阪、堺を引き廻され長崎まで送られました。兵庫、明石、姫路、赤穂、岡山、三原、広島、山口へと引き廻され、途中2名が加えられて下関まで行きま

した。下関から舟で小倉に渡り、赤間、博多、唐津に至りました。そこから更に伊万里、武雄を通過して彼杵に着き、舟で大村湾を時津まで渡り、長崎を見下ろす小高い丘の上で、磔刑に処せられました。26名のうち6名はフランシスコ会の宣教師で、その内4名はスペイン人、ひとりにはメキシコ人、ひとりにはゴアのインド人でありました。日本人20名の内、イエズス会の会士3名、信者17名の内、3名は子供でありました。

#### 8. 細川ガラシャの死

細川ガラシャ 1563年(永禄6)―1600年8月25日(慶長5. 7. 17) 安土桃山時代の代表的女性キリシタンで、細川忠興の妻、明智光秀の第3女で、本名は玉子。ガラシャは靈名。本能寺の変(1582年)で忠興は光秀に忠ならず、玉子を丹後の味土野(みとの)(京都市竹野郡弥栄町)の山中に幽閉しました。2年後忠興の元に帰りました。次第にキリシタンに惹かれてゆき、忠興の九州出兵中に受洗しました。1600年(慶長5)、徳川家康に味方して上杉征伐に出陣した忠興の留守中、大阪城の石田三成によって人質となることを命ぜられました。家老の小笠原小斎に自らを討たせ、細川家の面目を保ちました。忠興はキリスト教式葬儀を行いその死を悼みました。

#### 9. 岡本大八事件

徳川家康の側近本多正純の与力岡本大八が有馬晴信に対して、1610年1月6日(慶長14. 12. 12)マカオの黒船を撃沈した恩賞として、当時鍋島領となっていた旧有馬領3郡の還付を斡旋するともちかけ、運動資金として白銀600枚その他を詐取しました。これが発覚すると、大八は晴信が長崎奉行長谷川藤広毒殺を企てたと告発しました。1612年、晴信は甲斐に配流・斬罪となり、大八は火刑となりました。両者がキリシタンであったため、幕府のキリシタン禁制の端緒となりました。

#### 10. キリシタン禁制

岡本大八事件やスペイン船の領海測量事件を機に、江戸幕府は、1612年(慶長17)に、禁教を表明しました。1613(慶長18)12月5日付で伴天連追放文を全国に布告し、その後も禁教関連法令を繰返し、発布しました。これにより、外人聖職者はもとより、高山右近ら主だった信者もマカオ、マニラに追放され、日本各地で大弾圧が開始されました。1638年(寛永15)以降、禁教令と訴人への褒賞金の規定が高札として提示されました。明治政府は、当初、幕府のキリシタン禁制政策を引継ぎましたが、諸外国の抗議により、1873年(明治6)高札を撤去し、キリスト教を黙認するに至りました。

#### 11. 宗門改

キリシタン禁制に伴って行われた制度で、1612年9月1日(慶長17. 8. 6)、江戸幕府は直轄領と有馬領にキリシタン禁制を発し、更に1614年2月1日(慶長17. 8. 6)には全国的にキリシタン禁制を発布し、各地で宗門改を行い、仏寺の檀家であることを証明する寺請制を採用しました。島原の乱(1637年)後、1640年(寛永17)江戸幕府は幕府に宗門改役を置き、キリシタン禁圧を統御し、16



64年（寛文4）からは1万石以上の藩にも宗門改役を設置し、1671年からは宗門人別帳を作成し、全国的に施行しました。このようにして宗門人別帳によってキリシタンでないことを証明する寺請制の普及により、民衆は、奉公、旅行、婚姻、死亡、移住、離婚などの際に寺請証文（宗旨手形）が必要とされ、寺院は幕府の民衆支配の重要な一端を担うことになりました。維新政府は、神道国教政策により廃仏毀釈を進め、1869年（明治2）以来、神社氏子調制を採る方策を進め、1872年（明治5）の壬申戸籍、そして1873年（明治6）2月の切支丹高札の撤去により、宗門改制度はなくなりました。

#### 12. 慶長遣欧使節

1613年（慶長18）9月15日、仙台藩主伊達政宗がローマ教皇のもとに派遣した使節のことを言います。政宗の家臣支倉常長らの使節一行は、フランシスコ会宣教師ルイス・ソテロに伴われて、仙台藩領の陸奥牡鹿郡月の浦を前記の日に出発しました。メキシコ、スペインを經由して、1615年（元和1）ローマに至り、教皇パウルス5世に謁見し、政宗の書状を呈示しました。その後支倉常長はマドリッドで受洗しました。帰途再びメキシコに寄り、マニラ経由で1620年（元和6）、月の浦港に帰還しました。しかし、その時、すでに禁教令は発せられていました。出発時に140名～150名いた日本人のうち支倉常長とともに帰国したのは、5名であると伝えられています。遣欧使節として、政治・外交上の目的は達せられませんでした。西欧世界に直接触れてキリスト教に改宗したこと、また初めて太平洋・大西洋を横断した日本人として注目されています。

#### 13. キリシタン大名高山右近マニラに追放

高山右近（1552年〈天文21〉—1615年2月5日〈慶長20年1月8日〉）は1564年（永祿7）ロレンソから受洗。高山飛騨守厨書の長男として摂津高山に生まれました。安土桃山・江戸前期の代表的キリシタン大名で、ヨーロッパ教会にも知られた国際人でした。21才のとき、摂津国（大阪）高槻城主となり織田信長に仕えました。天正15年（1587）、秀吉は九州出兵の途次、突然伴天連追放令を發布し、右近にも棄教を迫りましたが、拒否したため、領地を没収されました。のちに前田利家の客将として金沢に招かれました。利家没後も嗣子前田利長に仕えました。利休七哲の一人として茶人としても名声を博しました。慶長19年（1614）江戸幕府のキリシタン禁教令によってマニラに追放され、病に倒れてマニラで客死しました。マニラのディオラ広場には高山右近像が建立されています。

#### 14. 京都の大殉教

京都もキリシタンに対する弾圧の激しいところでしたが、特に1619年（元和5）、キリシタンが大勢で暮らしていた「だいうす町」に手入れがあり、63名が投獄、うち52名が七条河原で火焙りにより殉教しました。翌1620年には引続く大火があり、キリシタン放火説が流されました。

15. 大村の大殉教  
1617年（元和3）—39年（寛永16）の大村領において一連の殉教事件が起きました。1616年に大村喜前の後を継いだ大村純頼は、幕府の圧力により信仰を捨てて迫害者に転じました。そして1639年まで大村領のいたるところで殉教者が続出しました。
16. 江戸の大殉教  
1623年（元和9）10月、原主水（はらもんど）の下僕の密告により、江戸のキリシタン名簿が北町奉行の手に渡った結果、原主水を始めとして、多くのキリシタンが逮捕されました。幕府は家光の時代となっていました。同年12月4日（寛永1. 10. 13）に50名が3組に分けられ、小伝馬町、日本橋、京橋、三田の目抜き通りを引回され、東海道の札ノ辻で火炙りの刑に処せられました。これをきっかけに、秋田、仙台、大阪、広島、平戸などの、各地で取締まりが始まりました。
17. 日葡混血児287人をマカオに追放  
江戸幕府は、1635年（寛永12）に、日本人の海外渡航と在外日本人の帰国を禁止致しました。1636年（寛永13）には日葡混血児287人をマカオに追放しました。そして長崎に築造した出島にポルトガル人を隔離しました。
18. 島原の乱 1637年—38年（寛永14—15）  
島原半島と天草諸島の農民が合流した農民一揆で天草一揆とも言われています。両地域ともキリシタン大名有馬氏・小西氏の旧領でキリシタンが多く、島原藩主松倉氏、天草の領主寺沢氏の苛政とキリシタン弾圧のため、1637年秋、両地で一揆が起きました。農民統一の象徴として祭り上げられた天草四郎は、本名益田四郎、関ヶ原の役後、肥後国宇土に帰農していた小西行長の遺臣益田好次の子で、天童として種々の奇跡を行った美少年などと伝えられておりますが、噂を作為的に流布した部分も多くあると思われます。1637年12月（寛永14. 10）、島原、天草の両一揆を統合し、まず富岡城を攻めその後有馬氏の古城、原城を修復してそこを拠点とすることになり、翌1638年1月17日（寛永14. 12. 3）、四郎らも入城しました。一行は婦女子を含めて総勢3万数千名と称されています。幕軍は松原信綱を筆頭に総勢約12万名にも及びました。島原の乱は、宗門一揆の観がありますが、本来的には農民一揆であり、キリシタン信仰によって団結を図ったものの、パードレの指導もなく誤った終末思想に走ったものと言えるのが一般的であります。もっとも、渡辺京二著「バテレンの世紀」新潮社発行、418ページ9行目以下で次の様に言っています。  
「島原・天草一揆を農民一揆か、宗門一揆かと問う者は、前近代においては、貧困や抑圧に対する現実的抗議が、必ず宗教的な理念と感情によって駆動されるという、ありふれた原則を知らぬのである。」  
(略)  
「ドイツ農民戦争の例を見ても分かるように、宗門一揆と農民一揆とは表裏一体なのである。島原の乱の場合、問題なのは、それが単なる

農民一揆ではなく、キリスト教信仰という、思想的な結集点をもっていた農民一揆であるということである。」

19. 小西マンショの殉教により、日本国内の司祭は絶えた  
小西マンショは1614年（慶長19）の宣教師追放の際、マカオへ渡り、その後ローマへ行きイエズス会に入会し、ローマのグレゴリアナ大学で勉強し司祭となりました。1624年（寛永1）帰路につき、1632年（寛永9）に日本に戻りました。その後、京阪地方へ赴き、1644年（正保1）に大阪で逮捕され、殉教しました。彼の死によって日本のキリシタンは潜伏時代に入りました。
  20. 豊後崩れ  
豊後はキリシタン大名として著名な大友宗麟の治下にあったため多くのキリシタンが存在しました。1593年（文禄2）宗麟の子大友義統が除国した後は細分化され、小藩分立の状態にありました。しかし、江戸幕府が行った1612年9月（慶長17. 8）以降の全国的なキリシタン禁制政策の進行に伴って、豊後各藩においても弾圧が開始されました。崩れとは検挙事件を指します。
  21. こおりくずれ（郡崩れ）  
1657年（明暦3）、大村藩領内郡村（現大村市）を中心に潜伏キリシタン608名が検挙されました。斬罪411名、牢内病死78名、永牢20名、赦免99名となりました。
  22. こばくずれ（木場崩れ）  
大村領浦上木場村（長崎市）のキリシタン弾正事件の事を言います。隣接した公領浦上の影響で1790年（寛政2）の一番崩れ、1856年（安政3）の二番崩れ、1867年（慶応3）の三番崩れの3回起りました。
  23. あまくさくずれ（天草崩れ）  
1805年（文化5）に発生した天草における潜伏キリシタンの露頭事件を指します。島原の乱後全滅したかのようにみえた天草のキリシタンは4カ村に潜伏を続けていました。4カ村だけでも5, 200名が「心得違い」の者とされました。
  24. 浦上村の潜伏信徒発見  
1865年（慶応1）3月17日金曜日、浦上村の潜伏キリシタンが大浦天主堂で神父に信仰を告白しました。
  25. 1867年（慶応3）キリシタン弾圧事件「浦上四番崩れ」発生  
長崎浦上の隠れキリシタンに対して4回にわたり弾圧があり、一番崩れは1790年（寛政2）—95年、二番崩れは1842年（天保13）、三番崩れは1856年（安西3）、最後に1867年（慶応3）から73年（明治6）に四番崩れという大検挙がありました。
- 第3. キリシタンに対する弾圧  
この問題については、意外なところに書かれていたので全文を引用致します。中田考著「イスラームの論理」筑摩選書82ページ以下「それは踏み絵などによる内心の信仰の審問、爪の間に針を刺す、銛先（もりさ

き)を付けた焼いた竹で身体を引き裂く、硫黄入りの熱湯を浴びせる、手足を切り取る、穴に逆さ吊りにする、焼きゴテで烙印を押す等のおよそ考え得る限りの拷問を加えての棄教の強制、棄教拒否者に対しては生きたまふ焚殺する等の物理的抹殺、というキリスト教徒に対する弾圧、殺戮、『宗教浄化』の歴史である。

日本におけるキリスト教弾圧は、その規模、組織性、徹底性のいずれにおいても、秦の始皇帝の焚書坑儒、デキウス帝以降のローマ帝国のキリスト教迫害、中世ローマ・カトリックの異端審問、近世プロテスタントの魔女狩り等にも匹敵する世界宗教史上まれに見る残虐な迫害であった。そして当時の日本には『邪教』たる『一神教徒』が抹殺されることに、『他宗教への寛容』『人間の尊厳』『思想の自由』等の観点から異を唱えた宗教者の存在は管見の限り仏教にしろ神道にしろ一人も記録されていない。

キリスト教は日本の多神教的宗教風土に適合しなかったために『自然』に消滅したのではない。キリスト教の浸透を恐れる支配階級の『一部』の武士と僧侶(政治家と知識人)の共謀によって『作為的』に抹殺されたのである。」

#### 第4. 「生月島」がなぜ世界遺産から消されたのか。

1. 2018(平成30)年6月30日、日本国内の第22番の世界遺産として「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が登録されました。しかし、登録された12ヶ所には、「生月島」が入っておりません。何故でしょうか。
2. 生月島は、1549年のシャヴィエル上陸後イエズス会が初めて民衆の一斉改宗を行った地域です。ここには400年以上も守り続けた「オラショ」と呼ばれる祈りがあります。祈りを捧げる対象である聖画は、「御前様」(ごぜんさま)と呼ばれる「ちょんまげ姿の男」で、イエスに洗礼を授けたヨハネを描いたものだと言います。
3. 1991年(平成3年)、平戸島と生月島との間に橋が架かり陸続きとなり、生月島は、より近くなりました。それまでは平戸島の薄香港からフェリーで渡っていました。フェリーから眼前に見える中江の島には、殉教した三人のジュワン様が祀られています。
4. 何故、生月島が世界遺産から外れたかについては、小学館発行、広野真嗣著「消された信仰『最後のかくれキリシタン』—長崎・生月島の人々」(2018年6月4日発行)という著作があります。この著作を読んで衝撃を受けたのですが、「隠れキリシタン」というのは、平仮名で書く場合と、片仮名で書く場合の2種類あるというのです。岩波キリスト教辞典の54ページを見てみると、「【潜伏キリシタン】1644年最後の在日宣教師小西マンショが殉教し、指導者不在のもとで幕末まで約230年間にわたり信徒だけで信仰を継承した。その期間を潜伏時代、その間の信徒を潜伏キリシタンと呼ぶ。【カクレキリシタン】1873年事実上のキリシタン禁教令撤廃後も、カトリックと仏教、神道、土着の諸民族信仰が融合した独自の信仰形態を現在にいたるまで継承してい

る人々をさす。明治初頭には2万人前後といわれたが、現在では長崎県下の五島地方、外野そとめ地方（出津しつ、黒崎）、生月いきつき島に400戸程度存在するのみである。」

5. 以上を私なりに総括してみると次の様になると思料します。

- (1) 生月島の人々の信仰は、多神教的、現世利益的性格が強く、祖先祭祀を重んじている。
- (2) オラショは先祖が大切に伝えてきたものであるが、当事者達は意味内容の理解が殆んどない。
- (3) 信仰対象の中心は、掛軸に描かれた人物像である。
- (4) 集会はあっても、所謂教会がない。
- (5) 教会がない事に通じるが司祭がない。
- (6) 所謂「受洗」がない。

しかし、世界遺産の登録には、この様な人々の信仰内容まで考慮する必要があるのであろうか。ここに、キリスト教の独善さ、偏屈さ、閉鎖性、排他性を見る思いがする。歴史は歴史でないのか。

以上

(2019年7月5日脱稿)

#### 【年 表】

- ◎1549年8月15日（天文18.7.22）  
シャヴィエル（シャヴィエルと表記するのが最もバスク語に近いと認められる）がトルレス、C.らを率いて、鹿児島に上陸。キリスト教伝来。
- ◎1563年  
大村純忠（おおむらすみただ）が洗礼を受け、日本初のキリシタン大名が誕生。
- ◎1583年（天正10）天正遣欧使節  
九州のキリシタン大名が伊東マンショ・千々石ミゲル・原マルチノ・中浦ジュリアンの4人の少年使節を欧州に派遣。
- ◎1587年7月24日（天正15.6.19）  
豊臣秀吉が伴天連追放令を発した。（天正禁令）
- ◎1596年10月10日（文禄5.8.28）  
サン・フェリーペ号事件  
メキシコへ向っていたスペインのサン・フェリーペ号が土佐の浦戸に漂着。航海士の一人の発言に秀吉が激怒。
- ◎1596年12月18日（慶長1.10.19）  
日本人二十六聖人事件  
フランシスコ会の宣教師6名を含む26名が逮捕処刑。
- ◎1614年2月1日（慶長18.12.23）  
江戸幕府が全国に禁教令を発布（徳川秀忠名）。（慶長禁令）
- ◎1614年（慶長19）  
江戸幕府のキリシタン禁教令で、高山右近はマニラに追放され、その後病

- に倒れてマニラで没した。
- ◎1637年—38年（寛永14—15）  
島原の乱（天草一揆とも言います）
  - ◎1644年（正保1）  
最後の神父である小西マンショが殉死。日本国内に神父はいなくなった。
  - ◎1865年（慶応1）3月17日  
大浦天主堂内で浦上信徒名乗り出る（旧信徒の発見）。
  - ◎1873年2月24日  
キリシタン禁制高札撤去。

### 今後のスケジュール

#### 【癒しの音楽コンサート】

2019年9月21日(土曜日)14時開演

会場：山崎製パン 飯島藤十郎社主記念 LLC ホール

出演：水野佐知香(Vn)、三宅美子(Hp)、吉原佐知子(箏)

ゲスト Christopher Yohmei Blasdel(尺八)

#### 【デュオで楽しむヴァイオリン・出版記念コンサート】

2019年12月22日(日曜日)14時開演

開場：古賀政男音楽博物館「けやきホール」



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

http://just-int.com/

2019年8月16日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫